

わが村は美しく

神恵内村編

第十二回 奨励賞 しりべし女子会



後志地域でも一番遅い時期まで収穫できるニセコ町の農園でイチゴの収穫をアピール。



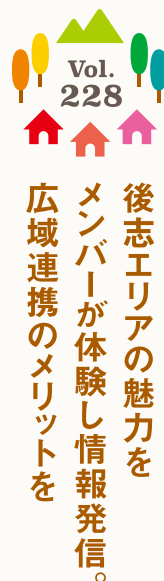
池本さんオリジナルの、地元の特産品・サクラマスを使ったカレー。

お話をしてくれた人



しりべし女子会 会長
池本 美紀 さん

同じ思いの女子がつながり
地域の隠れた魅力を発掘



後志と書いて「しりべし」と読む。これは道民であれば八割以上は正解しそだが、いざ、「しりべし」を漢字で書くとなると難易度は大幅に上がる。

後志振興局エリアは、北海道の西部・日本海に面した小樽市をはじめ、内陸部に位置するニセコ町、倶知安町など、二十市町村を網羅している漁村の魅力も山村の魅力も併せ持つ地域である。

ここでユニークな活動をしているのが、しりべし女子会だ。会長の池本美紀さんは話す。

「北海道新幹線開業をきっかけに道南と青森県の女性で結成された『津軽海マダロ女子会』などに刺激され、二〇二六年に結成しました。後志が、北海

道新幹線の札幌延伸ルートに含まれ、倶知安駅が新設されることで、地域を元気にしたい女子同士がつながったら、何かできるのではないかと、考えました」

神恵内村で民宿「きのえ荘」を営む池本さんと観光関連で知り合っていた、ニセコ町在住の向田薫さんの二人が近隣の女子に声掛けをして、七人でスタートした。

略称は「しり女」に。「お尻を連想させる略称はどうかと思いつながらも、逆に注目してもらえるかもと、日頃からメンバーは略称を使っています」と楽しみに話す向田さん。

しり隊、しりに敷かれ隊など湧き出るアイデアを形に

活動の基本は、後志各地の

第11回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

神恵内村へは、札幌から岩内経由でバスが運行。ニセコ町など周辺を散策するなら小樽から駅レンタカーを使用すると便利。4月末には神恵内村営でオーシャンビューの温泉がオープンする予定。しりべし女子会の詳しい情報は、HPやFacebookを参考にしてください。

お問い合わせ／民宿きのえ荘 ☎0135・76・5480



農漁男子プロジェクトで後志のキラキラ男子を撮影してパネル展を実施。



旬の食材を変えながら提供した「しり弁」。共和町の米をはじめ各町村の食材を使っている。



小樽のヴェネツィア美術館で18世紀のドレスを体験して記念撮影。



しりべし女子のロゴマークを入れたパーカーもユニフォーム。左は池本さん。右が向田さん。



活動のあれこれがわかるしりべし女子会報告書。楽しげな様子が伝わってくる。



倶知安町を訪れ、町の隠れた商品を発掘して紹介するしり隊メンバー。ピンクのTシャツがユニフォーム。

観光資源を巡り、地域のお祭り、勉強会、交流会に参加して、自分たち「しり隊」が楽しむ姿をSNSで発信すること。「女性目線、今まで埋もれていた後志の魅力を引き出し、広域連携して観光情報を発信しています」と池本さんは話す。

設立と同時に始めたのが「しりに敷かれ隊」。このネーミングも興味深い。彼女らの活動に賛同してくれる人や施設をサポートとして募集している。

女子会のメンバーの中には、寿都町在住のカメラマン女子もいて、自分の得意分野を生かして「農漁男子プロジェクト」を企画。農漁のキラキラ男子を撮影して、写真展を開催した。

しりべし川柳の募集では、大阪府や熊本県など本州からの応募もあり、地場産品を景品として贈った。思いついたらすぐに実行する機動力もある。

コロナ禍で二年ほど活動を自粛していたが、最近は「しり隊」を徐々に再開。中には子どもが生まれたメンバーもいて、活動参加は強制ではないので、集ま

れる人が二人いれば活動するという方針です」と池本さん。

構想に約十年かけたアイデアが二〇二四年四月に実現した。地元食材を詰め込んだ弁当「しり弁」の販売だ。「後志は野菜も魚もお米も果物も、おいしいものの宝庫です。そこで弁当をメンバーでプロデュース。旬の食材を使い中身を変えながら、七月までの四ヶ月限定で、道の駅や地元商店で販売して好評でした。今年も続ける予定です」と池本さん。

小樽のヴェネツィア美術館で、イタリア製ドレスを着て十八世紀のスタイル体験をしたり、初夏まで収穫できる農園でイチゴ狩り体験をしたり。彼女らに遭遇したら、ただ遊んでいるだけに見えるそうだが、その後はしっかりと情報を発信する。現在、メンバーを募集中。慣れるまでの二年間は「若葉」として活動し、後に正式メンバーになる。

地域をアピールしたい人や行政に代わってしり女が情報発信を代行する。新しい活動のスタイルだ。



「わが村は美しく北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311(内線5685)

